ソーラーセンサーライト

取付説明書

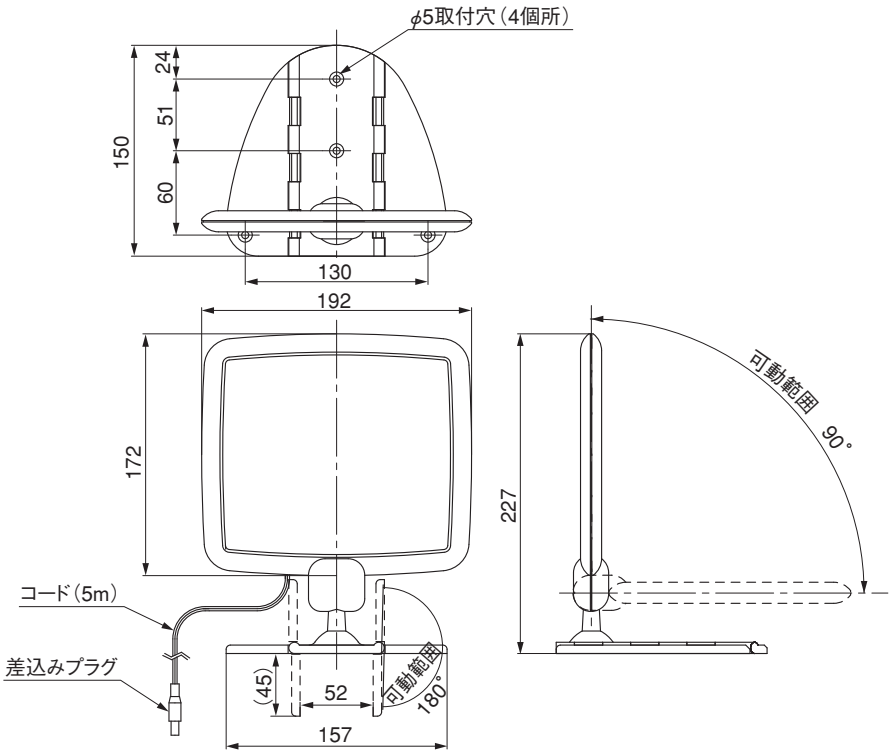
●このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
●正しく施工、組付けをしていただく為に、施工前に必ず取付説明書をお読みください。

■梱包明細書

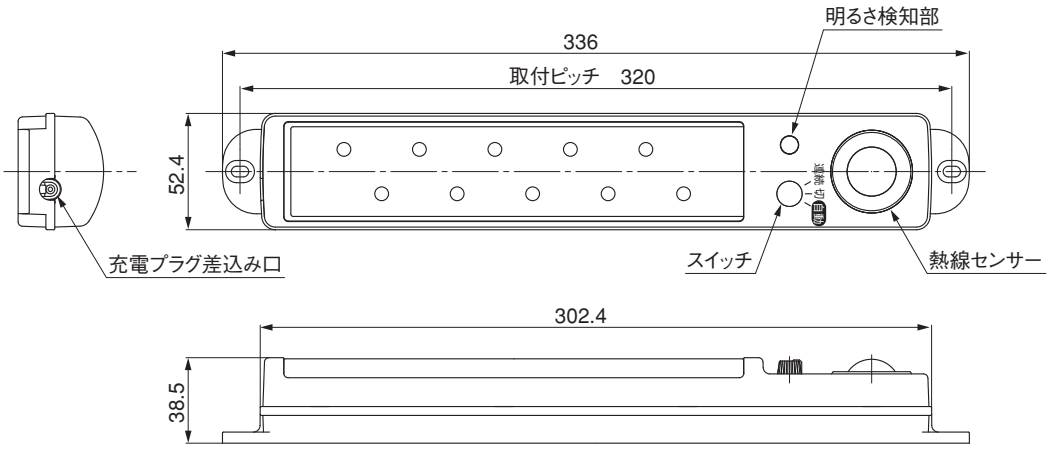
名　　称	員 数
ソーラーパネル	1
ライト本体	1
ソーラーパネル・ライト本体取付ネジ　φ4×19テクス	6

名　　称	員 数
取付説明書	1
取扱説明書	1

1. 各部の名称および基本寸法図



ソーラーパネル



ライト本体

2. ソーラーパネルの取付け

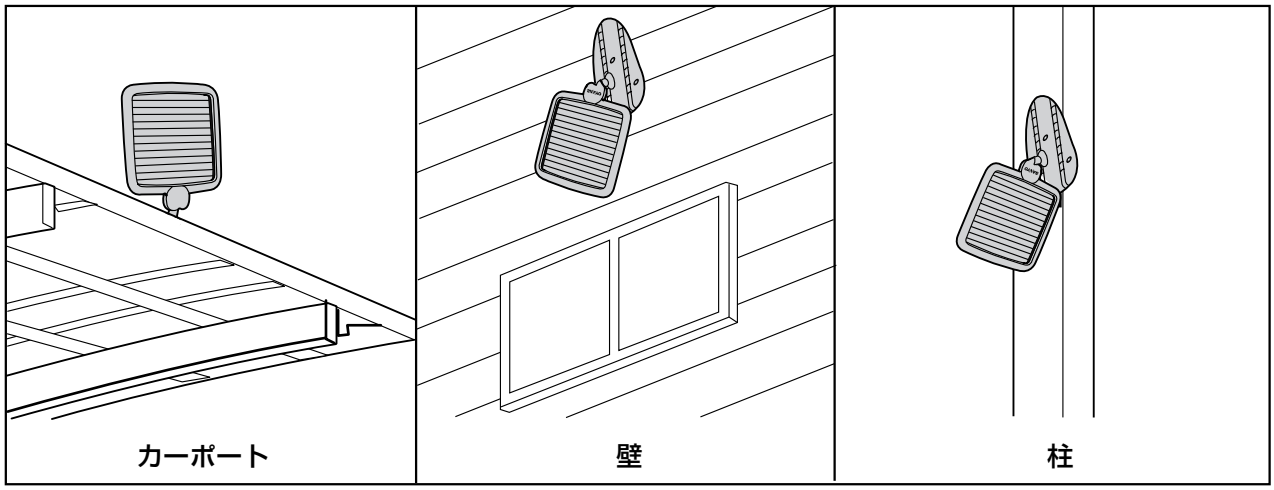


図2-1　施工例

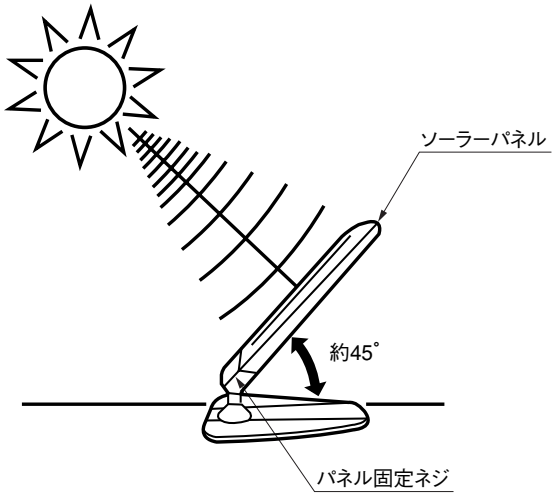


図2-2

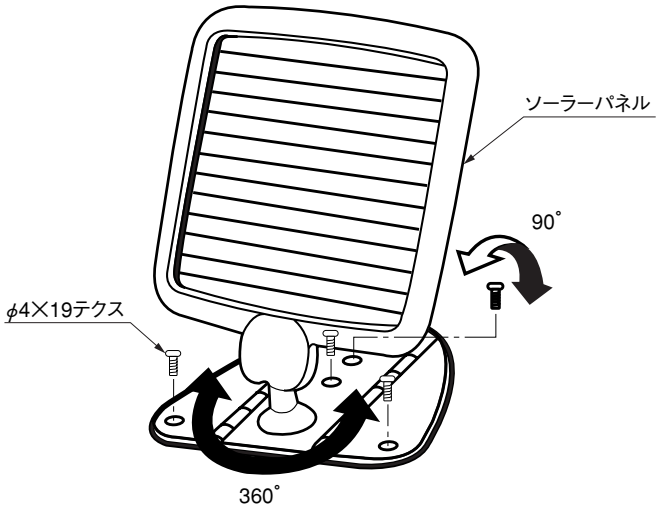


図2-3

❶ 取付場所を選んで取付けてください。（図2-1参照）

<注　意>

- できる限り真南の方向に向けて、太陽光をさえぎる障害物がないところを選んでください。
  北向き設置は発電量が少ないため、設置しないでください。また、雪の積もらない場所に設置してください。
- 太陽の軌跡は季節によって変化します。夏は真上に、冬は低い位置に照射角度が大きく変化します。冬場の低い角度をイメージして、ソーラーパネル取付け場所が陰にならないかを確認するとともに、周囲の樹木や家屋にも注意してください。
- 太陽光が照射している時間に設置予定場所を確認することが重要です。ソーラーパネルは晴天時に1日4時間以上（特に正午前後）直射日光の当たる場所に設置してください。

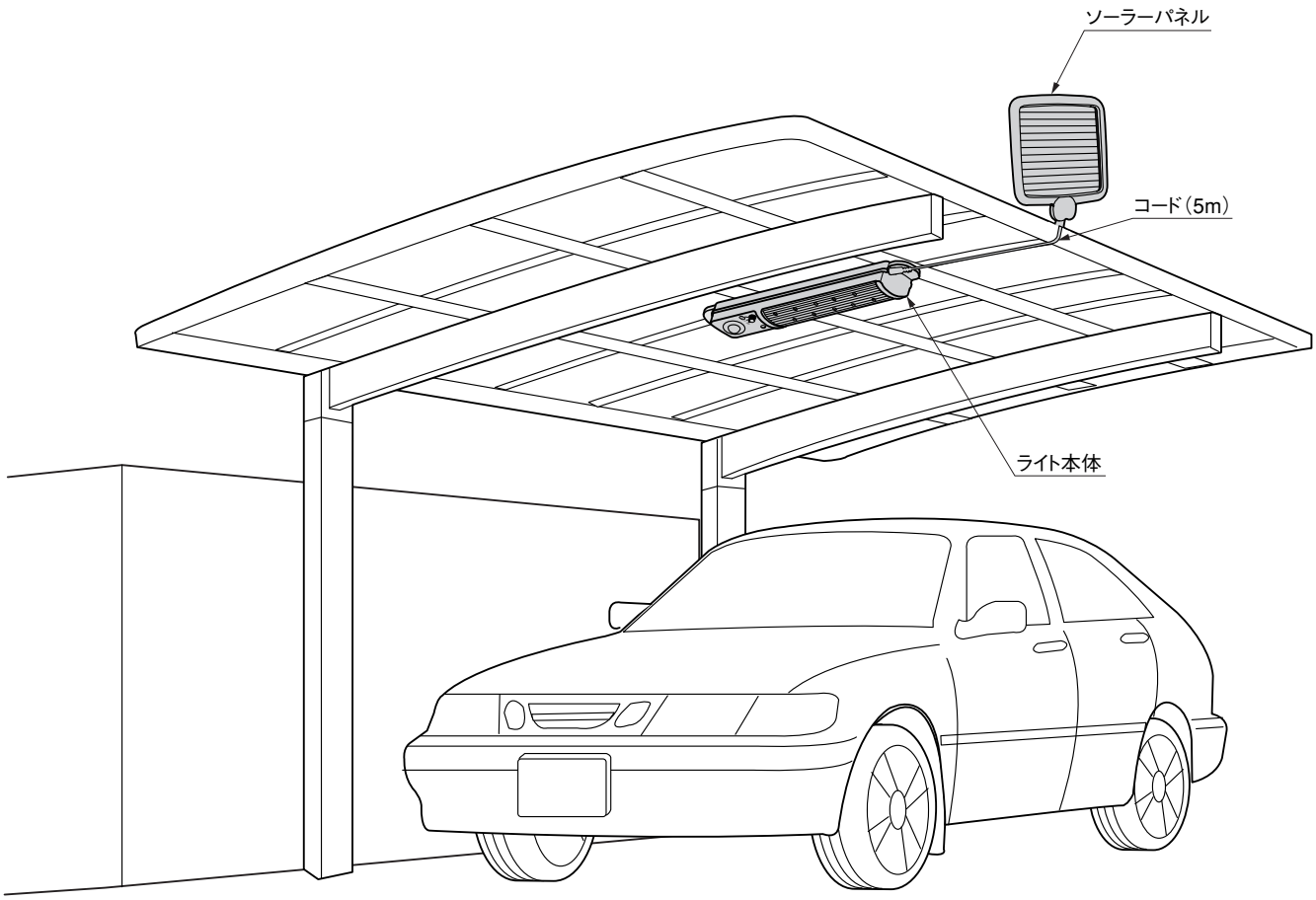
❷ パネルの取付けは、できる限り真南の方向に向けて、角度を約45°に調整してください。（図2-2参照）

<注　意>

- パネル固定ネジは、パネル角度を自在に選べる状態で締付けてください。

❸ ソーラーパネルをソーラーパネル・ライト本体取付ネジ（φ4×19テクス）で取付けてください。（図2-3参照）

3. ソーラーパネルの取付け例　※カーポートに取付ける場合



<注 意>

- ライト本体とソーラーパネルを接続するコードの長さは5mです。コードの長さの範囲内にライト本体とソーラーパネルがおさまるように取付けてください。
- ソーラーパネルは、直接屋根材に取付けないでください。雨漏りの原因になります。
- コードはしっかり固定してください。風の力を受けて揺れると断線の原因になります。

4. ライト本体の取付け

<注 意>

- ライト本体は防滴構造ですが防水構造ではありません。軒先やカーポートの下など雨水が直接当たらない場所に設置してください。
- 垂直に取付ける場合は、センサー部を上側にして取付けてください。

4-1 アルミ形材などに取付ける場合

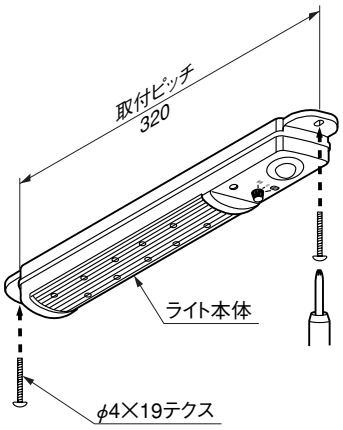


図4-1

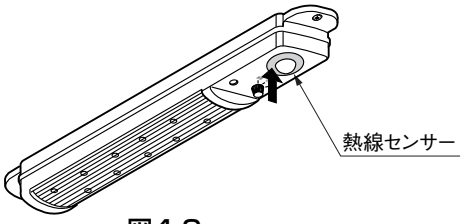


図4-2

❶ ライト本体をソーラーパネル・ライト本体取付ネジ（φ4×19テクス）2本で取付けてください。（図4-1参照）

<注 意>

- 熱線センサーの座の片側を押し込むと、熱線センサーの方向調整ができます。センサーを検知したい方向に向けてください。（図4-2参照）
- 調整方法については「 5-3 熱線センサーの調整方法」を参照してください。

❷ ソーラーパネルから出ているコードの差込みプラグをライト本体の側面にある充電プラグ差込み口に差込んでください。

4-2 木柱などに取付ける場合

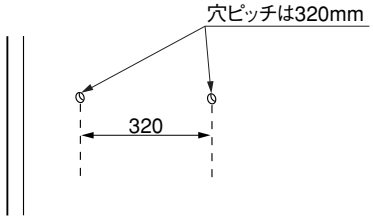


図4-3

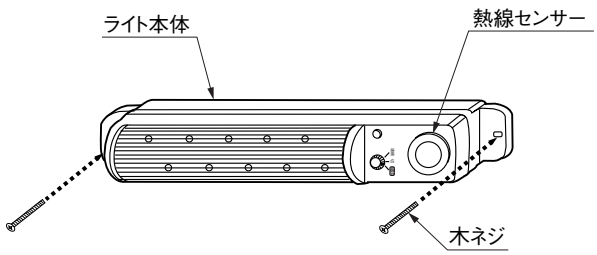


図4-4

❶ 柱などにニードルまたはドライバー等で下穴をあけてください。（図4-3参照）

❷ 別途市販の木ネジ等で固定してください。（図4-4参照）

❸ 熱線センサーの角度を調整してください。（図4-2参照）

❹ ソーラーパネルから出ているコードの差込みプラグをライト本体の側面にある充電プラグ差込み口に差込んでください。

5. 各部の調整方法

5-1 バッテリーの充電方法

<注 意>

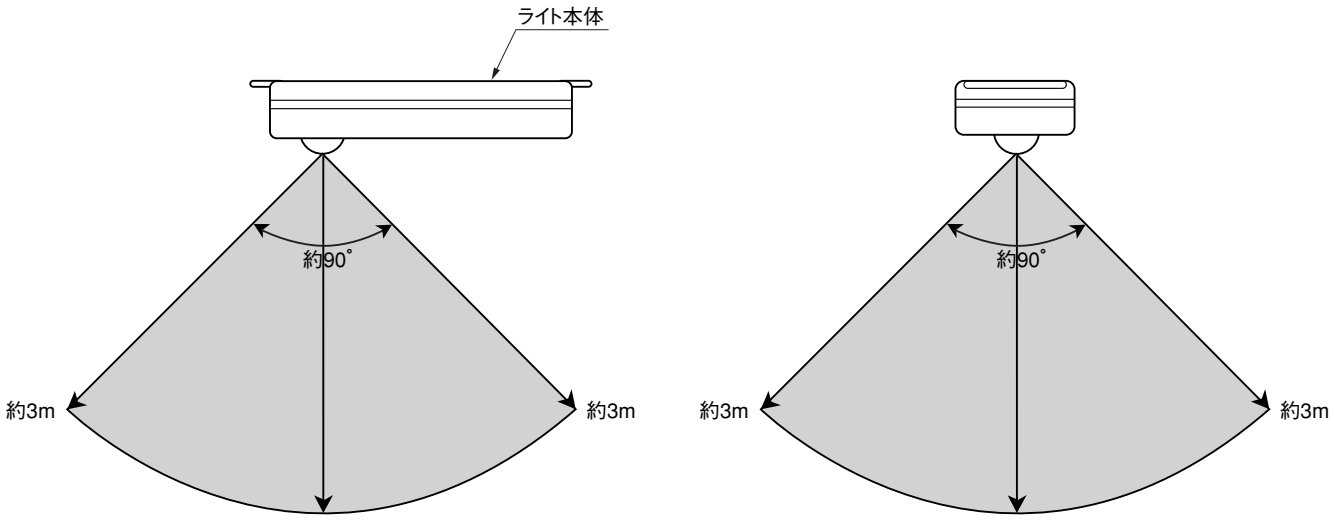
● バッテリーは工場出荷段階では、充電が不十分です。必ず充電した後にご使用ください。

❶ ライト本体側面のプラグ差込み口にソーラーパネル側のプラグを奥までしっかりと差込んでください。

❷ スイッチを「切」にして充電してください。

❸ ソーラーパネルに直接日光が当たる場所に、晴天下で10時間以上放置してください。

5-2 熱線センサの検知範囲について



横から見た図　　上から見た図

<注 意>

- 熱線センサーの作動する距離には制限があります。注意して角度を調整してください。
- 熱線センサーをガラスなどの障害物でさえぎると人の動きを検知できません。
- センサーエリア内の温度と人の温度の差が少ない時は、熱線センサー感度が悪くなることがあります。
- 落としたりぶつけたりして、センサー部に傷をつけたり、強い衝撃を与えないでください。
  故障の原因になります。
- センサー部に雨水、ほこり、雪などが付着すると動作しない場合があります。
- センサー範囲（角度・距離）は周囲温度の影響を受け、変動します。
- 次のような場所での使用はセンサーが誤作動したり、感度が悪くなる場合がありますが故障ではありません。
  誤作動を繰り返す場合は設置場所や方向を変えてください。
  ・ストーブや温風器などの熱を発する物が近くにある場合。
  ・急な温度変化のある場合。
  ・携帯電話、コードレス電話など、無線機器が近くにある場合。
  ・車のヘッドライトやネオンサインが入光する場合。

5. つづき

5-3 熱線センサーの検知範囲の調整方法

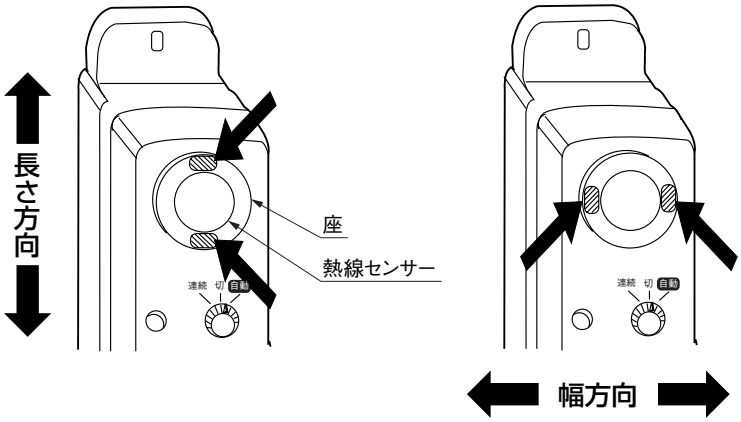


図5-1　図5-2

❶ 矢印（図5-1）の位置を押し、本体の長さ方向の角度を調整してください。
❷ 次に、矢印（図5-2）の位置を押して、幅方向の角度を調整してください。
❸ センサーの座の部分を押し込むとセンサーが回転します。検知したい方向に向けてください。
❹ スイッチを「連続」の位置にしてください。（図5-3参照）ライトが点灯することを確認してください。

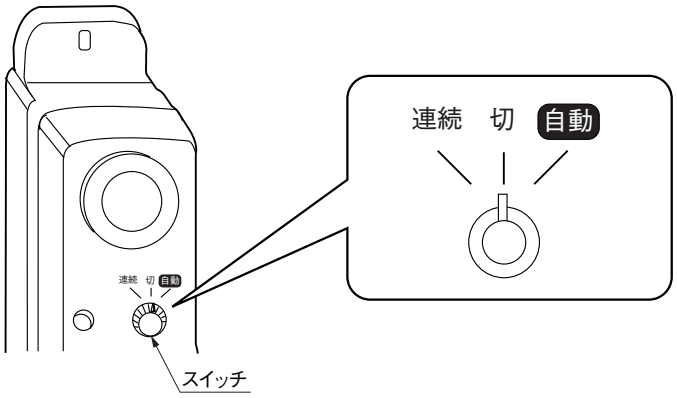


図5-3

❺ 十分な充電を行なった後、周囲が暗くなってからスイッチを「自動」にし、動作の確認をしてください。（図5-4参照）
❻ センサー範囲に人が入るとランプが点灯し、30秒～1分で徐々に消灯するのを確認してください。

自動	周囲が暗く人体を感知した時点灯します。 （人が離れてから30秒～1分で徐々に消灯します。）
切	消灯
連続	連続点灯します。

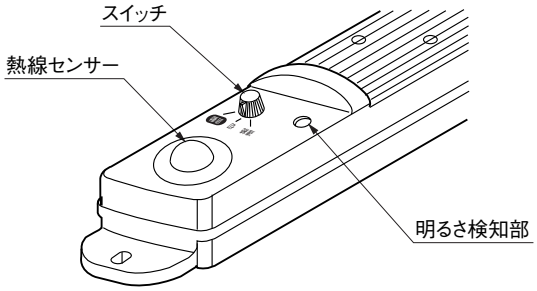


図5-4

<注 意>

- 検知範囲内に人が入れば、ふたたび点灯します。ただし、点灯後その場に静止していれば消灯します。
- 充電不足や検知する物体の動きが早く、センサーの検知時間が短くなる場合は、30秒前に消灯する場合があります。十分な充電を行なった後、センサーの検知時間を増やして再確認してください。
- スイッチを「自動」に切り替えた時センサーの動作が安定するのに約2分かかります。センサーの動作が安定してから動作確認をしてください。

6. 動作確認

※施工終了後、ライト本体の動作確認を行なってください。

項　目	テストと正常動作	異常と対処処理
点灯確認	ライト本体のスイッチを「連続」にする ・ライトが点灯する。	点灯しない ・バッテリーの充電をする。 （5-1 バッテリーの充電方法参照） ・コードの接続を確認する。 （4.ライト本体の取付け参照） ・ソーラーパネルの汚れを拭き取ります。 点灯時間が短い ・梅雨、冬の時期は太陽光が不足します。ライト本体のスイッチを「切」にして、数日間充電してください。
熱線センサーの確認	周囲が暗い状態でライト本体のスイッチを「自動」にする。 ・熱線センサー検知範囲に人が入るとライトが点灯する。（30秒～1分間）	点灯しない ・センサー検知方向を調整してください。 （5-3 熱線センサーの検知距離の調整方法参照） 点灯時間が短い ・バッテリーの充電が不足しているおそれがありますので、再度充電を行なってください。 （5-1 バッテリーの充電方法参照） ・センサーの検知時間を増やして、再確認してください。 （5-3 熱線センサーの検知距離の調整方法参照）
熱線センサー検知距離の確認	周囲が暗い状態でライト本体のスイッチを「自動」にする。 ・ライト本体から3メートル以内に人が近づくとライトが点灯する。	点灯しない ・センサー検知方向を調整してください。 （5-3 熱線センサーの検知距離の調整方法参照） ・熱線センサーの白いドーム状レンズの汚れを拭き取ってください。

7. 仕様

ライト本体

ラ　イ　ト	種　　類	高輝度白色LEDランプ×10個
バッテリー	種　　類	ニカド電池 DC1.2V×4個（円筒密閉形）
	電圧・容量	4.8V ー 600mAh
熱線センサ作動照度		約2ルクス以下（映画館の上映中程度の明るさ）
重　　量		330g
平均点灯回数		30回／1日点灯（1回30秒～1分点灯）として5日間（晴天時、10時間以上充電で5日間使用可）

ソーラーパネル

種　　類	アモルファスSi太陽電池（防雨形）※1
出　　力	定格5.3V　0.9W（最大7V　1.2 W）
重　　量	400g

※1　防雨形：鉛直から60°の範囲の降雨によって有害な影響がないもの。

株式会社 LIXIL

工事店様へ

●施工終了後、取付説明書は施主様にお渡しください。

●ご使用いただきましてありがとうございました。

施主様へ

●月に一度程度のお手入れで美しさが長く保てます。汚れの軽い場合は水にぬらした柔らかいぞうきんで拭き取ってください。
また汚れのひどい場合はうすめた中性洗剤で拭き取ったのち洗剤が残らないように拭き取ってください。

取説コード
Z103

200104A
201108B_1042